



LDAP-base-dn ~ log-adj-changes コマンド

LDAP-base-dn

許可要求を受信したサーバに検索を開始させる LDAP 階層の位置を指定するには、AAA サーバ ホスト コンフィギュレーション モードで **ldap-base-dn** コマンドを使用します。AAA サーバ ホスト コンフィギュレーション モードには、AAA サーバ プロトコル コンフィギュレーション モードからアクセスします。この指定を削除して、リストの先頭から検索が開始されるようにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

ldap-base-dn *string*

no ldap-base-dn

シンタックスの説明

string 許可要求を受信したサーバに検索を開始させる LDAP 階層の位置を指定する、最大 128 文字の文字列。大文字と小文字が区別されます。たとえば、OU=Cisco。文字列にスペースを含めることはできませんが、その他の特殊文字は使用できます。

デフォルト

リストの先頭から検索を開始します。

コマンドモード

次の表に、コマンドを入力できるモードを示します。

コマンドモード	ファイアウォール モード		セキュリティ コンテキスト		
	ルーテッド	トランスパレント	シングル	マルチ コンテキスト	システム
AAA サーバ ホスト	•	•	•	•	—

コマンド履歴

リリース	変更
3.1(1)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

このコマンドが有効なのは、LDAP サーバに限定されます。

例 次に、ホスト [1.2.3.4] 上の [svrgrp1] という LDAP AAA サーバを設定し、タイムアウトを 9 秒、再試行間隔を 7 秒、LDAP ベース DN を [starthere] にする例を示します。

```
hostname(config)# aaa-server svrgrp1 protocol ldap
hostname(config-aaa-server-group)# aaa-server svrgrp1 host 1.2.3.4
hostname(config-aaa-server-host)# timeout 9
hostname(config-aaa-server-host)# retry 7
hostname(config-aaa-server-host)# ldap-base-dn starthere
hostname(config-aaa-server-host)# exit
```

関連コマンド

コマンド	説明
aaa-server host	AAA サーバ ホスト コンフィギュレーション モードを開始し、ホスト固有の AAA サーバ パラメータを設定できるようにします。
ldap-scope	許可要求を受信したサーバに検索させる LDAP 階層の範囲を指定します。
ldap-naming-attribute	LDAP サーバのエントリを一意のものとして特定する、Relative Distinguished Name (相対識別名) 属性 (複数可) を指定します。
ldap-login-dn	バインド時にシステムに使用させるディレクトリ オブジェクト名を指定します。
ldap-login-password	ログイン DN のパスワードを指定します。

ldap-defaults

LDAP のデフォルト値を定義するには、`crl configure` コンフィギュレーション モードで `ldap-defaults` コマンドを使用します。`crl configure` コンフィギュレーション モードには、`crypto ca` トラストポイント コンフィギュレーション モードからアクセスします。これらのデフォルト値が使用されるのは、LDAP サーバが要求した場合だけです。LDAP のデフォルト値を使用しないことを指定するには、このコマンドの `no` 形式を使用します。

`ldap-defaults server [port]`

`no ldap-defaults`

シンタックスの説明

<code>port</code>	(任意) LDAP サーバ ポートを指定します。このパラメータを指定しなかった場合、FWSM は標準 LDAP ポート (389) を使用します。
<code>server</code>	LDAP サーバの IP アドレスまたはドメイン名を指定します。CRL ディストリビューション ポイント内にすでに存在している場合は、この値が上書きされます。

デフォルト

デフォルトは設定されません。

コマンドモード

次の表に、コマンドを入力できるモードを示します。

コマンドモード	ファイアウォール モード		セキュリティ コンテキスト		
	ルーテッド	トランスペ アレント	シングル	マルチ	
				コンテキスト	システム
<code>crl configure</code> コンフィギュレーション	•	•	•	•	—

コマンド履歴

リリース	変更
3.1(1)	このコマンドが追加されました。

例

次に、デフォルト ポート (389) 上で LDAP のデフォルト値を定義する例を示します。

```
hostname(config)# crypto ca trustpoint central
hostname(ca-trustpoint)# crl configure
hostname(ca-crl)# ldap-defaults ldapdomain4 8389
```

関連コマンド

コマンド	説明
<code>crl configure</code>	<code>ca-crl</code> コンフィギュレーション モードを開始します。
<code>crypto ca trustpoint</code>	トラストポイント コンフィギュレーション モードを開始します。
<code>protocol ldap</code>	CRL の取得方式として LDAP を指定します。

ldap-dn

CRL 取得のための認証を要求する LDAP サーバに X.500 識別名およびパスワードを渡すには、`cr1 configure` コンフィギュレーション モードで `ldap-dn` コマンドを使用します。`cr1 configure` コンフィギュレーション モードには、`crypto ca` トラストポイント コンフィギュレーション モードからアクセスします。これらのパラメータが使用されるのは、LDAP サーバが要求した場合だけです。

LDAP DN を使用しないことを指定するには、このコマンドの `no` 形式を使用します。

```
ldap-dn x.500-name password
```

```
no ldap-dn
```

シンタックスの説明

<code>password</code>	この識別名に対応するパスワードを定義します。最大フィールド長は 128 文字です。
<code>x.500-name</code>	この CRL データベースにアクセスするディレクトリパスを定義します。例は <code>cn=cr1,ou=certs,o=CAName,c=US</code> のように定義します。最大フィールド長は 128 文字です。

デフォルト

デフォルト設定は無効です。

コマンドモード

次の表に、コマンドを入力できるモードを示します。

コマンドモード	ファイアウォール モード		セキュリティ コンテキスト		
	ルーテッド	トランスペ アレント	シングル	マルチ	
				コンテキスト	システム
<code>cr1 configure</code> コンフィギュレーション	•	•	•	•	—

コマンド履歴

リリース	変更
3.1(1)	このコマンドが追加されました。

例

次に、トラストポイント `central` に X.500 名として `CN=admin,OU=devtest,O=engineering`、パスワードとして `xyyzz` を指定する例を示します。

```
hostname(config)# crypto ca trustpoint central
hostname(ca-trustpoint)# cr1 configure
hostname(ca-cr1)# ldap-dn cn=admin,ou=devtest,o=engineering xxxzyy
```

関連コマンド

コマンド	説明
<code>cr1 configure</code>	<code>cr1 configure</code> コンフィギュレーション モードを開始します。
<code>crypto ca trustpoint</code>	<code>ca</code> トラストポイント コンフィギュレーション モードを開始します。
<code>protocol ldap</code>	CRL の取得方式として LDAP を指定します。

ldap-login-dn

システムにバインドさせるディレクトリ オブジェクト名を指定するには、AAA サーバ ホスト モードで **ldap-login-dn** コマンドを使用します。AAA サーバ ホスト コンフィギュレーション モードには、AAA サーバ プロトコル コンフィギュレーション モードからアクセスします。この指定を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

ldap-login-dn *string*

no ldap-login-dn

シンタックスの説明

<i>string</i>	LDAP 階層のディレクトリ オブジェクト名を指定する、最大 128 文字の文字列。大文字と小文字が区別されます。文字列にスペースを含めることはできませんが、その他の特殊文字は使用できます。
---------------	---

デフォルト

このコマンドには、デフォルトの動作または値はありません。

コマンド モード

次の表に、コマンドを入力できるモードを示します。

コマンド モード	ファイアウォール モード		セキュリティ コンテキスト		
	ルーテッド	トランスペアレント	シングル	マルチ コンテキスト	システム
AAA サーバ ホスト	•	•	•	•	—

コマンド履歴

リリース	変更
3.1(1)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

このコマンドが有効なのは、LDAP サーバに限定されます。サポートされる文字列の最大長は 128 文字です。

Microsoft Active Directory サーバなど、一部の LDAP サーバは、FWSM が認証バインディングによってハンドシェイクを確立してからでなければ、その他の LDAP 操作要求を受け付けません。FWSM は Login DN フィールドをユーザ認証要求に結合することによって、認証バインディングで認証されるようにします。Login DN フィールドでは、FWSM の認証特性を記述します。これらの特性は、管理者の権限が与えられたユーザの特性と一致させる必要があります。

string 変数には、VPN Concentrator 認証バインディング用のディレクトリ オブジェクト名を入力します。例：cn=Administrator, cn=users, ou=people, dc=XYZ Corporation, dc=com。anonymous としてアクセスする場合は、このフィールドをブランクにしておきます。

例

次に、ホスト [1.2.3.4] 上の [svrgrp1] という RADIUS AAA サーバを設定し、タイムアウトを 9 秒、再試行間隔を 7 秒、LDAP ログイン DN を [myobjectname] にする例を示します。

```
hostname(config)# aaa-server svrgrp1 protocol ldap
hostname(config-aaa-server-group)# aaa-server svrgrp1 host 1.2.3.4
hostname(config-aaa-server-host)# timeout 9
hostname(config-aaa-server-host)# retry 7
hostname(config-aaa-server-host)# ldap-login-dn myobjectname
hostname(config-aaa-server-host)# exit
```

関連コマンド

コマンド	説明
aaa-server host	AAA サーバ ホスト コンフィギュレーション モードを開始し、ホスト固有の AAA サーバ パラメータを設定できるようにします。
ldap-base-dn	許可要求を受信したサーバに検索を開始させる、LDAP 階層の位置を指定します。
ldap-login-password	ログイン DN のパスワードを指定します。このコマンドが有効なのは、LDAP サーバに限定されます。
ldap-naming-attribute	LDAP サーバのエントリを一意のものとして特定する、Relative Distinguished Name (相対識別名) 属性 (複数可) を指定します。
ldap-scope	許可要求を受信したサーバに検索させる LDAP 階層の範囲を指定します。

ldap-login-password

LDAP サーバのログインパスワードを指定するには、AAA サーバ ホスト モードで **ldap-login-password** コマンドを使用します。AAA サーバ ホスト コンフィギュレーション モードには、AAA サーバ プロトコル コンフィギュレーション モードからアクセスします。このパスワードを削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

ldap-login-password *string*

no ldap-login-password

シンタックスの説明

string 最大 64 文字の英数字パスワード。大文字と小文字が区別されます。パスワードにスペースを含めることはできません。

デフォルト

このコマンドには、デフォルトの動作または値はありません。

コマンド モード

次の表に、コマンドを入力できるモードを示します。

コマンド モード	ファイアウォール モード		セキュリティ コンテキスト		
	ルーテッド	トランスペ アレント	シングル	マルチ コンテキスト	システム
AAA サーバ ホスト	•	•	•	•	—

コマンド履歴

リリース	変更
3.1(1)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

このコマンドが有効なのは、LDAP サーバに限定されます。パスワードの最大長は 64 文字です。

例

次に、ホスト [1.2.3.4] 上の [svrgrp1] という RADIUS AAA サーバを設定し、タイムアウトを 9 秒、再試行間隔を 7 秒、LDAP ログインパスワードを [obscurepassword] にする例を示します。

```
hostname(config)# aaa-server svrgrp1 protocol ldap
hostname(config)# aaa-server svrgrp1 host 1.2.3.4
hostname(config-aaa-server)# timeout 9
hostname(config-aaa-server)# retry 7
hostname(config-aaa-server)# ldap-login-password obscurepassword
hostname(config-aaa-server)# exit
hostname(config)#
```

関連コマンド

コマンド	説明
aaa-server host	AAA サーバ ホスト コンフィギュレーション モードを開始し、ホスト固有の AAA サーバ パラメータを設定できるようにします。
ldap-base-dn	許可要求を受信したサーバに検索を開始させる、LDAP 階層の位置を指定します。
ldap-login-dn	バインド時にシステムに使用させるディレクトリ オブジェクト名を指定します。
ldap-naming-attribute	LDAP サーバのエントリを一意のものとして特定する、Relative Distinguished Name (相対識別名) 属性 (複数可) を指定します。
ldap-scope	許可要求を受信したサーバに検索させる LDAP 階層の範囲を指定します。

ldap-naming-attribute

Relative Distinguished Name (相対性識別名) 属性 (複数可) を指定するには、AAA サーバ ホスト モードで **ldap-naming-attribute** コマンドを使用します。AAA サーバ ホスト コンフィギュレーション モードには、AAA サーバ プロトコル コンフィギュレーション モードからアクセスします。この指定を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

ldap-naming-attribute *string*

no ldap-naming-attribute

シンタックスの説明

<i>string</i>	LDAP サーバのエントリを一意のものとして特定する、英数字で最大 128 文字の Relative Distinguished Name 属性 (複数可)。大文字と小文字が区別されます。文字列にスペースを含めることはできませんが、その他の特殊文字は使用できます。
---------------	--

デフォルト

このコマンドには、デフォルトの動作または値はありません。

コマンドモード

次の表に、コマンドを入力できるモードを示します。

コマンドモード	ファイアウォール モード		セキュリティ コンテキスト		
	ルーテッド	トランスペ アレント	シングル	マルチ コンテキスト	システム
AAA サーバ ホスト	•	•	•	•	—

コマンド履歴

リリース	変更
3.1(1)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

LDAP サーバのエントリを一意のものとして特定する、Relative Distinguished Name 属性 (複数可) を入力します。共通ネーミング属性は Common Name (cn) および User ID (uid) です。

このコマンドが有効なのは、LDAP サーバに限定されます。サポートされる文字列の最大長は 128 文字です。

例

次に、ホスト [1.2.3.4] 上の [svrgrp1] という RADIUS AAA サーバを設定し、タイムアウトを 9 秒、再試行間隔を 7 秒、LDAP ネーミング属性を [cn] にする例を示します。

```
hostname(config)# aaa-server svrgrp1 protocol ldap
hostname(config-aaa-server-group)# aaa-server svrgrp1 host 1.2.3.4
hostname(config-aaa-server-host)# timeout 9
hostname(config-aaa-server-host)# retry 7
hostname(config-aaa-server-host)# ldap-naming-attribute cn
hostname(config-aaa-server-host)# exit
```


関連コマンド

コマンド	説明
aaa-server host	AAA サーバ ホスト コンフィギュレーション モードを開始し、ホスト固有の AAA サーバパラメータを設定できるようにします。
ldap-base-dn	許可要求を受信したサーバに検索を開始させる、LDAP 階層の位置を指定します。
ldap-login-dn	バインド時にシステムに使用させるディレクトリ オブジェクト名を指定します。
ldap-login-password	ログイン DN のパスワードを指定します。このコマンドが有効なのは、LDAP サーバに限定されます。
ldap-scope	許可要求を受信したサーバに検索させる LDAP 階層の範囲を指定します。

ldap-scope

許可要求を受信したサーバに検索させる LDAP 階層の範囲を指定するには、AAA サーバ ホスト コンフィギュレーション モードで **ldap-scope** コマンドを使用します。AAA サーバ ホスト コンフィギュレーション モードには、AAA サーバ プロトコル コンフィギュレーション モードからアクセスします。この指定を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

ldap-scope scope

no ldap-scope

シンタックスの説明

<i>scope</i>	許可要求を受信したサーバに検索させる LDAP 階層のレベル数。有効値は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> • onelevel — ベース DN の下位の 1 レベルだけを検索します。 • subtree — ベース DN の下位レベルをすべて検索します。
--------------	---

デフォルト

デフォルト値は **onelevel** です。

コマンドモード

次の表に、コマンドを入力できるモードを示します。

コマンドモード	ファイアウォール モード		セキュリティ コンテキスト		
	ルーテッド	トランスパ アレント	シングル	マルチ コンテキスト	システム
AAA サーバ ホスト	•	•	•	•	—

コマンド履歴

リリース	変更
3.1(1)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

scope として **onelevel** を指定すると、ベース DN の下位の 1 レベルだけが検索されるので、短時間で検索できます。**subtree** を指定すると、ベース DN の下位レベルがすべて検索されるので、時間がかかります。

このコマンドが有効なのは、LDAP サーバに限定されます。

例 次に、ホスト [1.2.3.4] 上の [svrgrp1] という RADIUS AAA サーバを設定し、タイムアウトを 9 秒、再試行間隔を 7 秒、サブツリー レベルが含まれる LDAP スコープにする例を示します。

```
hostname(config)# aaa-server svrgrp1 protocol ldap
hostname(config-aaa-server-group)# aaa-server svrgrp1 host 1.2.3.4
hostname(config-aaa-server-host)# timeout 9
hostname(config-aaa-server-host)# retry 7
hostname(config-aaa-server-host)# ldap-scope subtree
hostname(config-aaa-server-host)# exit
```

関連コマンド

コマンド	説明
aaa-server host	AAA サーバ ホスト コンフィギュレーション モードを開始し、ホスト固有の AAA サーバ パラメータを設定できるようにします。
ldap-base-dn	許可要求を受信したサーバに検索を開始させる、LDAP 階層の位置を指定します。
ldap-login-dn	バインド時にシステムに使用させるディレクトリ オブジェクト名を指定します。
ldap-login-password	ログイン DN のパスワードを指定します。このコマンドが有効なのは、LDAP サーバに限定されます。
ldap-naming-attribute	LDAP サーバのエントリを一意のものとして特定する、Relative Distinguished Name (相対識別名) 属性 (複数可) を指定します。

leap-bypass

LEAP バイパスをイネーブルにするには、グループ ポリシー コンフィギュレーション モードで **leap-bypass enable** コマンドを使用します。LEAP バイパスをディセーブルにするには、**leap-bypass disable** コマンドを使用します。実行コンフィギュレーションから LEAP バイパス属性を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。このオプションを使用すると、別のグループ ポリシー から LEAP バイパスの値を継承できます。

LEAP バイパスがイネーブルの場合、VPN ハードウェア クライアントの背後のワイヤレス デバイスから送信された LEAP パケットは、ユーザ認証の前に VPN トンネルを通過します。このようにすると、シスコのワイヤレス アクセス ポイント デバイスを使用するワークステーションで LEAP 認証を確立できます。その後、ユーザ認証ごとに再認証します。

leap-bypass {enable | disable}

no leap-bypass

シンタックスの説明

disable	LEAP バイパスをディセーブルにします。
enable	LEAP バイパスをイネーブルにします。

デフォルト

LEAP バイパスはディセーブルです。

コマンドモード

次の表に、コマンドを入力できるモードを示します。

コマンドモード	ファイアウォール モード		セキュリティ コンテキスト		
	ルーテッド	トランスペ アレント	シングル	マルチ	
				コンテキスト	システム
グループ ポリシー コンフィ ギュレーション	•	—	•	—	—

コマンド履歴

リリース	変更
3.1(1)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

対話式ハードウェア クライアント認証をイネーブルにしている場合、この機能は予期した動作になりません。

詳細については、『*Catalyst 6500 Series Switch and Cisco 7600 Series Router Firewall Services Module Configuration Guide*』を参照してください。



(注)

認証を受けていないトラフィックがトンネルを通過することには、セキュリティ リスクが伴います。

例

次に、[FirstGroup] というグループ ポリシーに対して LEAP Bypass を設定する例を示します。

```
hostname(config)# group-policy FirstGroup attributes
hostname(config-group-policy)# leap-bypass enable
```

関連コマンド	コマンド	説明
	secure-unit-authentication	VPN ハードウェア クライアントがトンネルを開始するたびに、ユーザ名とパスワードによる認証を要求します。
	user-authentication	VPN ハードウェア クライアントの背後のユーザに、FWSM の認証を受けてから接続することを要求します。

limit-resource

マルチコンテキスト モードにおけるクラスのリソース限度を指定するには、クラス コンフィギュレーション モードで **limit-resource** コマンドを使用します。限度をデフォルトに戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。FWSM は、リソース クラスにコンテキストを割り当てることによってリソースを管理します。各コンテキストは、クラスによって設定されたリソース限度を使用します。

```
limit-resource {all {number% | 0} |[rate] resource_name number[%] | 0}
```

```
no limit-resource {all |[rate] resource_name}
```

シンタクスの説明		
0		リソースを無制限（システム限界）に設定します。
all		すべてのリソースに対し、割合または無制限として限度を設定します。
number[%]		1 以上の固定値として、またはシステム限界に対する割合として（パーセント記号 [%] と組み合わせた場合）、リソース限度を指定します。デバイスをオーバーサブスクライブさせる場合は、100% を超えて割り当てることができます。すべてのリソースに対して設定できるのは、割合または無制限を意味する 0 だけです。
rate		レートまたは絶対限度を設定できるリソースについて、レート / 秒を設定することを指定します。レート / 秒を設定できるリソースについては、 表 18-1 を参照してください。
resource_name		限度を設定するリソースの名前を指定します。この限度によって、 all として設定した限度が上書きされます。

デフォルト

次の限度だけは、コンテキストで許容される最大値にデフォルトで設定されますが、それ以外のリソースはすべて無制限に設定されます。

- Telnet セッション — 5 セッション
- SSH セッション — 5 セッション
- IPSec セッション — 5 セッション
- MAC アドレス — 65,535 エントリ

コマンド モード

次の表に、コマンドを入力できるモードを示します。

コマンド モード	ファイアウォール モード		セキュリティ コンテキスト		
	ルーテッド	トランスペアレント	シングル	マルチ コンテキスト	システム
クラス コンフィギュレーション	該当なし	該当なし	—	—	•

コマンド履歴	リリース	変更
	2.2(1)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン クラスに対してリソースを制限した場合、FWSM がそのクラスに割り当てられた各コンテキストにリソースの一部を取り置くことはありません。FWSM は、コンテキストに対して最大限度を設定します。リソースをオーバースクライブさせた場合、または一部のリソースを無制限にした場合は、少数のコンテキストでこれらのリソースを使い果たしてしまい、他のコンテキストのサービスが悪影響を受ける可能性があります。

表 18-1 に、リソース タイプおよび限度を示します。show resource types コマンドの項も参照してください。

表 18-1 リソース名および限度

リソース名	コンテキストあたりの最小値および最大値	システムとしての合計数	説明
mac-addresses	該当なし	同時に 65 K	トランスペアレントファイアウォールモードの場合、MAC アドレス テーブルで許容される MAC アドレス数
conns	該当なし	同時に 999,900 102,400/ 秒 (レート)	1 つのホストと複数の他のホスト間を含め、任意の 2 つのホスト間の TCP または UDP 接続  (注) 同時接続に関して、FWSM は接続を受け付ける 2 つの Network Processor (NP; ネットワーク プロセッサ) のそれぞれに、限度の半分ずつを割り当てます。接続は通常、NP 間で均等に分割されます。ただし、状況によっては、接続が均等に分割されず、一方の NP が最大接続限度に達しないうちに、他方の NP が最大数に達する可能性があります。この場合、使用できる最大接続数は設定した限度を下回ります。NP の分配は、アルゴリズムに基づいてスイッチが制御します。ユーザ側では、スイッチ上でこのアルゴリズムを調整することも、または不均衡を考慮して接続限度を上方修正することもできます。
fixups	該当なし	10,000/ 秒 (レート)	アプリケーション検査
hosts	該当なし	同時に 256 K	FWSM 経由で接続できるホスト
ipsec	最小 1 同時に最大 5	同時に 10	IPSec セッション
asdm	最小 1 同時に最大 5	同時に 32	ASDM 管理セッション  (注) ASDM セッションでは、HTTPS 接続を 2 つ使用します。モニタリング用に 1 つ (常に存在)、設定変更用に 1 つ (変更時に限定して存在) です。たとえば、32 の PDM セッションというシステム限界の場合、64 の HTTPS セッションが限度になります。
ssh	最小 1 同時に最大 5	同時に 100	SSH セッション

表 18-1 リソース名および限度 (続き)

リソース名	コンテキストあたりの最小値および最大値	システムとしての合計数	説明
syslogs	該当なし	30,000/ 秒 (レート)	システム メッセージ  (注) FWSM の端末またはバッファにメッセージを送信する場合、FWSM は 30,000 メッセージ/秒をサポートできません。Syslog サーバにメッセージを送信する場合、FWSM は 25,000/ 秒をサポートします。
telnet	最小 1 同時に最大 5	同時に 100	Telnet セッション
xlates	該当なし	同時に 256 K	NAT 変換

例 次に、conns のデフォルト クラス限度を無制限ではなく、10% に設定する例を示します。

```
hostname(config)# class default
hostname(config-class)# limit-resource conns 10%
```

その他のすべてのリソースは無制限のままです。

fixups だけは 10% に設定し、それ以外のリソースはすべて 5% に設定して、gold というクラスを追加する場合、次のコマンドを入力します。

```
hostname(config)# class gold
hostname(config-class)# limit-resource all 5%
hostname(config-class)# limit-resource fixups 10%
```

Syslog メッセージだけは 500/ 秒に設定し、それ以外のリソースはすべて 3% に設定して、silver というクラスを追加する場合、次のコマンドを入力します。

```
hostname(config)# class silver
hostname(config-class)# limit-resource all 3%
hostname(config-class)# limit-resource rate syslogs 500
```

関連コマンド

コマンド	説明
class	リソース クラスを作成します。
context	セキュリティ コンテキストを設定します。
member	リソース クラスにコンテキストを割り当てます。
show resource allocation	各クラスのリソース割り当てを表示します。
show resource types	制限を設定できるリソース タイプを表示します。

log-adj-changes

Open Shortest Path First (OSPF) ネイバーの起動時または停止時に Syslog メッセージを送信するようにルータを設定するには、ルータ コンフィギュレーション モードで **log-adj-changes** コマンドを使用します。この機能をオフにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

log-adj-changes [*detail*]

no log-adj-changes [*detail*]

シンタックスの説明

detail (任意) ネイバーが起動または停止したときでなく、状態が変化するたびに、Syslog メッセージを送信します。

デフォルト

このコマンドは、デフォルトでイネーブルです。

コマンド モード

次の表に、コマンドを入力できるモードを示します。

コマンド モード	ファイアウォール モード		セキュリティ コンテキスト		
	ルーテッド	トランスペ アレント	シングル	マルチ コンテキスト	システム
ルータ コンフィギュレーション	•	—	•	—	—

コマンド履歴

リリース	変更
1.1(1)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

log-adj-changes コマンドはデフォルトでイネーブルです。このコマンドの **no** 形式を使用して削除しないかぎり、実行コンフィギュレーションに含まれます。

例

次に、OSPF ネイバーの起動時または停止時に、Syslog メッセージが送信されないようにする例を示します。

```
hostname(config)# router ospf 5
hostname(config-router)# no log-adj-changes
```

関連コマンド

コマンド	説明
router ospf	ルータ コンフィギュレーション モードを開始します。
show ospf	OSPF ルーティング プロセスに関する一般的な情報を表示します。

